

1 背景・目的

- 福島県の自然公園利用者数は、震災前の7割に満たない状況が続いている。
- 環境省は、「福島再生・未来志向プロジェクト」の一つとして、「ふくしまグリーン復興への支援」を行うことを公表した。
- 「ふくしまグリーン復興構想」は自然環境の保全と調和を図りながら適正な利用により、国内外の交流人口の拡大を目指す。

2 自然公園の概況

- 自然公園を有する市町村向けアンケートでは、自然公園における保全や利用の取組について、力をいれるべきと半数以上が回答。



3 自然公園を取り巻く課題等

- | | |
|-----------------------------------|-------------------------------|
| (1) 上質な景観の保全
樹木の生長等、眺望、景観阻害 | (5) 情報発信
正確な情報発信/一元的な情報発信 |
| (2) 利用拠点の老朽化
施設の老朽化/ニーズへの対応遅れ | (6) 自然環境の保全
外来種の侵入、食害/環境変化 |
| (3) 自然公園の利用実態
日帰り・短時間利用/一時的な渋滞 | (7) 環境負荷の低減
脱炭素、資源循環の取組 |
| (4) インバウンド対策
外国人利用者目線での改善 | (8) 交通環境整備
二次交通の整備と利便性向上 |

4 目指すべき姿

- 自然環境を適切に保全するとともに、自然体験の提供を通じて自然保護意識の醸成を図り、自然の恵みを次世代へ継承する。
- 魅力向上と周遊する仕組みづくりなどにより、自然公園利用者数の回復と交流人口の拡大を図り、福島県全体の復興に寄与する。
- 脱炭素や資源循環等の視点による新たな仕組みの検討や構築等を通じて、環境負荷が少なく持続可能な自然公園を目指す。

5 目標 国立公園・国定公園利用者数

H22(2010)年 640万人 → H29(2017)年 580万人 → **【目標】R5(2023)年 700万人**

コンセプト

まもり、みがき、未来へつなぐ。至福のふくしま

6 3つの柱と具体的取組

国立公園・国定公園の魅力向上

自然公園の魅力を活かし、磨きあげ、公園の特徴をいかしたコンテンツを創出。

- インバウンド対策
サイン等多言語化/サービス向上
- 景観の改善
ビューポイントの選定・整備



- エコツーリズムの推進
ファムトリップ
モニターツアー/フェスティバル
- 自然環境の保全
水環境保全活動、調査研究
野生鳥獣による食害対策 等
- 二次交通の検討



尾瀬沼ビジターセンター整備 等

環境変化を踏まえた 県立自然公園の見直し

只見柳津県立自然公園と越後三山只見国定公園を一体的に管理し、保護と適正利用を推進するための調査、検討。

- 県立自然公園の国定公園編入
自然環境調査/協議/連携



国立公園・国定公園を中心に 福島県内を広く周遊する仕組みづくり

自然資源等をつなぎ合わせ広域周遊や何度も訪れたいくなる仕組みを構築。

- ロングトレイルを含む
周遊ルートの設定
ホープツーリズムと連携



- 周遊促進の仕組みづくり
- 多様な移動手段の検討



- 国立公園
①磐梯朝日/②日光/③尾瀬

- 国定公園
④越後三山只見

- 県立自然公園
⑤霊山/⑥霞ヶ城/⑦南湖
⑧奥久慈⑨阿武隈高原中部
⑩夏井川渓谷/⑪大川羽鳥
⑫只見柳津/⑬松川浦
⑭磐城海岸/⑮勿来

7 効果的な実施に向けて

推進体制の整備

- ・団体、市町村等と推進体制
- ・専門家からのアドバイス

情報発信・プロモーション

- ・ワンストップ型ホームページ
- ・海外への周知
- ・各種事業との連携